

■三條実美 公卿・政治家。〈明治維新〉後、権謀術数の岩倉具視に対し、緩衝剂的な役割を演じるも、翻弄された。

さんじょうさねとみ

大塩平八郎乱1837＝ 京都梨木町の邸で、_三條実万の第四子に生まれる。

母は土佐藩主山内豊策の三女紀子。生後、洛東の農家で保育され、

阿部正弘首座1845＝ 8歳：
孝明天皇・・・1846＝ 9歳：

帰邸後、

_和漢の学に通じ尊攘思想の持ち主であった富田織部(後藤一郎)に学んでその影響を強く受ける。

ペリー来航・1853＝16歳：

開国開港・・・1854＝17歳：兄の死去後、織部の推挙で三條家を継いで侍従となり、元服して加茂社に勤める。

安政大地震・1855＝18歳：

松下村塾・・・1856＝19歳：右近衛権少将、

五ヶ国条約・1858＝21歳：*大老井伊直弼による弾圧で、父実万が辞官落飾すると、政争の渦中に巻き込まれ、尊攘派急進公卿の一人に数えられ、国事御用掛、京都御守衛御用掛、賀茂社行幸御用掛などを務め、さまざまな画策・活動を行う。当時、彼の周辺には真木和泉や久坂玄瑞などがいた。

桜田門外変・1860＝23歳：

生麦事件・・・1862＝25歳：幕府に攘夷策実行を促す朝廷の正使となるなどしたが、

8月18日政変 1863＝26歳：*〈八月十八日の政変〉後は“七卿落”の一人として長州さらに太宰府へ落ちのび、官位を剥奪された。

禁門の変・・・1864＝27歳：

大政奉還・・・1867＝30歳：ふたたび上洛、

明治維新・・・1868＝31歳：_維新政府になると、議定、関東監察使、副総裁、外国事務取調掛、議定兼輔相、右大臣などを歴任、

戊辰戦争終・・・1869＝32歳：永世禄5000石を下賜され、修史局総裁になった。

廃藩置県・・・1871＝34歳：*右大臣のまま神口伯、宣教長官を兼ね、さらに太政大臣となって岩倉使節団を米欧に派遣。

明治6年政変 1873＝36歳：_使節団帰国後の征韓論の分裂でその收拾ができず、岩倉具視に委ね、明治6年の政変をもたらした。

_以後、太政大臣の地位にあり、

明治14年政変1881＝44歳：

新体詩抄・・・1882＝45歳：

内閣発足・・・1885＝48歳：内閣制後は内大臣、

帝国憲法発布1889＝52歳：一時内閣総理大臣を兼任した。

足尾鉾毒始・1891＝54歳：_没した。